

第14回奈良県臨床細胞学会ワークショップ

日時：令和3年1月23日(土)

午後1時～5時

場所：奈良県立医科大学

講演会テーマ「唾液腺細胞診」

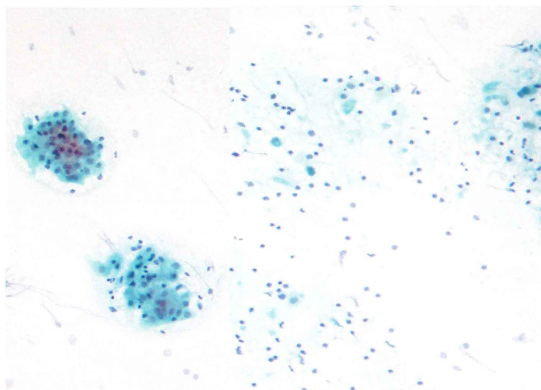
「検鏡実習」

近畿大学奈良病院 病理診断科 若狭 朋子

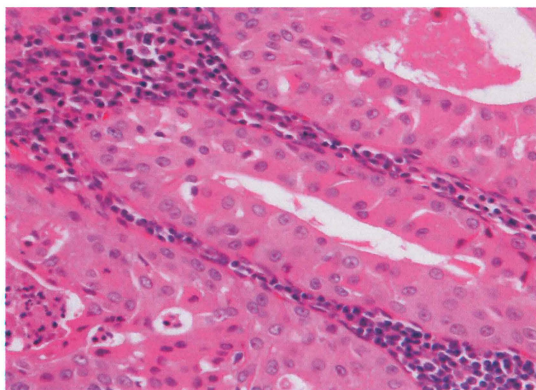
臨床検査部 浦 雅彦

頭頸部領域の細胞診をテーマとし17症例の検鏡実習を行いました。再検鏡をご希望の方は近畿大学奈良病院(0743-77-0880 内3056)若狭朋子、浦 雅彦までご連絡ください。なお、症例16, 17は東京医科大学人体病理学 長尾俊孝先生よりご提供いただきました。

症例1 ワルチン腫瘍(典型例)

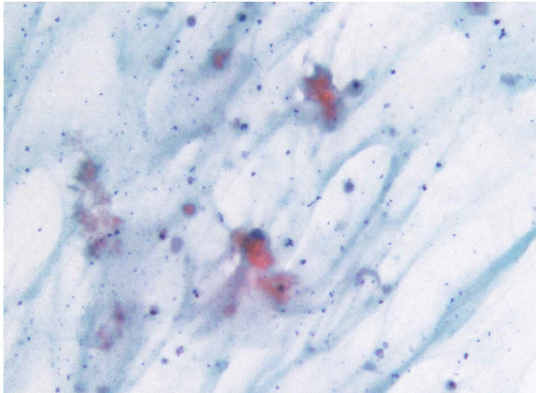


リンパ球(2+)、組織球(+)を背景に、腺上皮細胞集塊や変性した円柱状の腺上皮細胞が見られる。

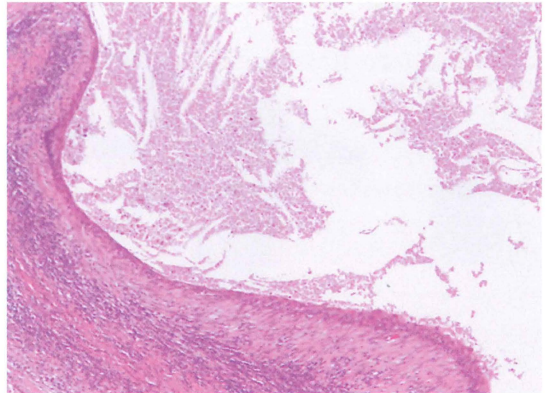


腺腔形成細胞と基底細胞様細胞からなる二層のオンコサイトとリンパ組織からなる間質からなる腫瘍。上皮細胞は腺管状や乳頭嚢胞状構造を形成する。間質のリンパ組織は胚中心を形成することもある。

症例 2 ワルチン腫瘍（細胞少数例）

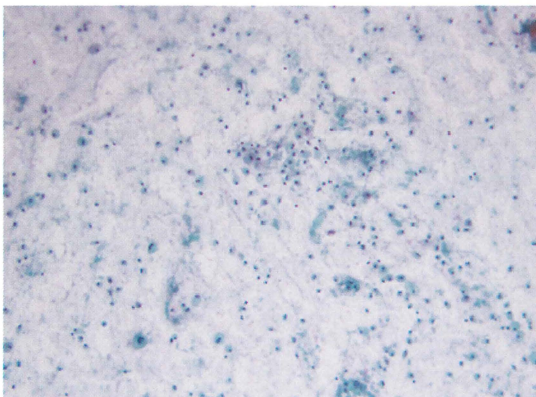


粘液を背景に、変性した好中球（+），変性した組織球（+），変性した腺房細胞集塊（数個）が見られる。

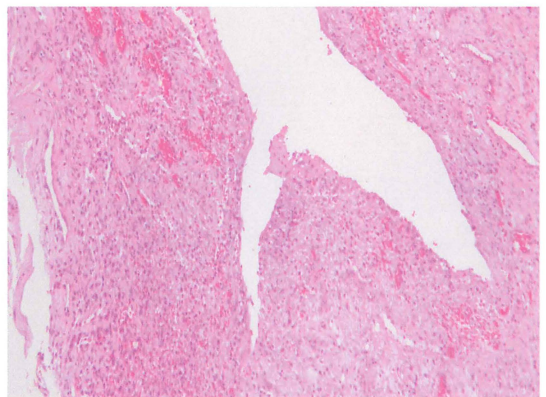


殆どが嚢胞内容液であった診断困難例。ワルチン腫瘍は両側性に発生することの多い腫瘍であるが、本症例では対側の耳下腺は肉芽組織のみであった。

症例 3 ガマ腫

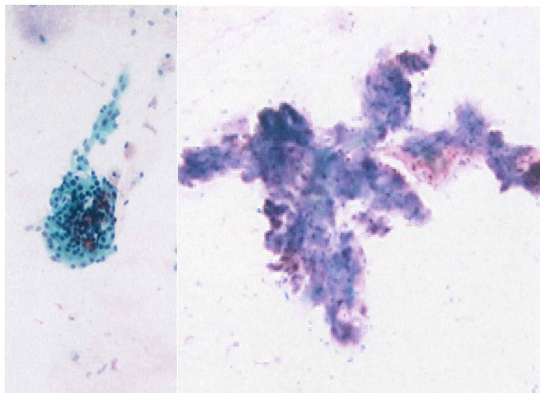


多様性を示すリンパ球（多数），組織球（+）が見られる。

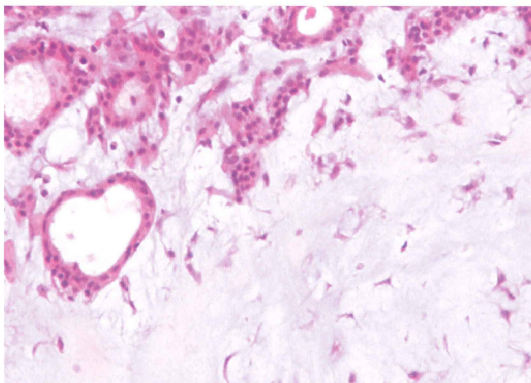


唾液腺の貯留性嚢胞（非腫瘍性）。組織球を入れた粘液と基質化をみとめる。

症例 4 多形腺腫

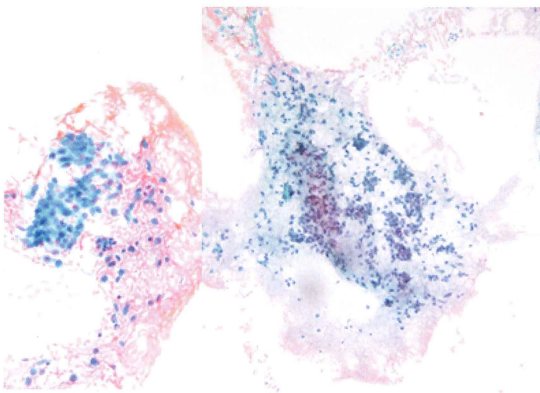


紡錘形細胞を有する粘液腫様物質がほとんどで少量の腺上皮細胞集塊が見られた。

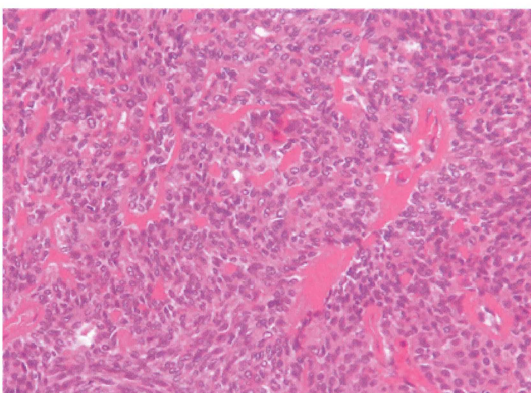


粘液腫様背景がほとんどで、細胞成分が少なかったケース。

症例 5 多形腺腫（富細胞性）

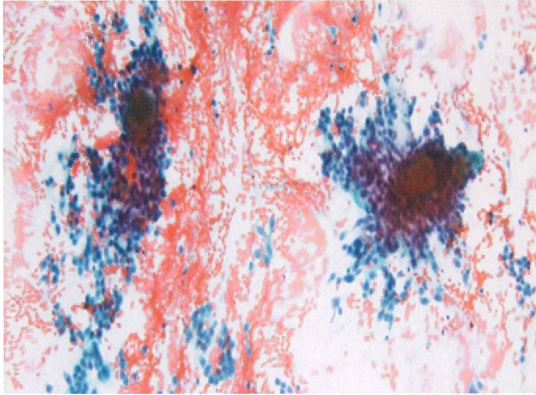


紡錘形細胞を有する粘液腫様間質成分と上皮細胞集塊が多数見られる。

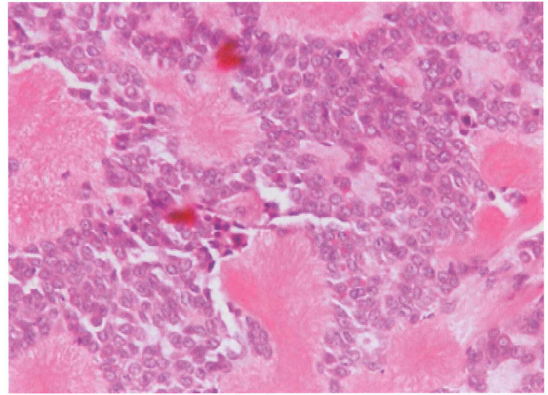


短紡錘形の筋上皮細胞様細胞が密に増生していたケース。形質細胞様筋上皮細胞が密に出現しており間質成分がすくなかった。

症例 6 多形腺腫（富細胞性）

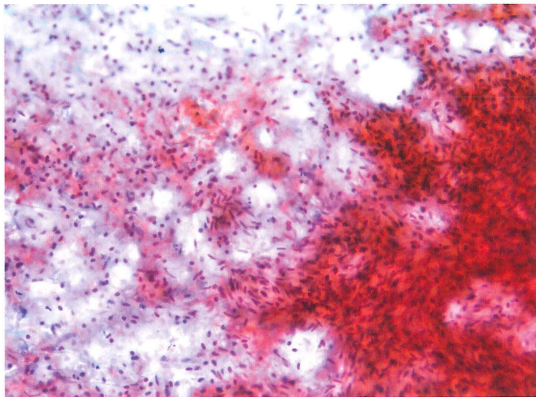


赤血球を背景に、紡錘形細胞を有する粘液腫様物質と腺上皮細胞集塊が見られる。

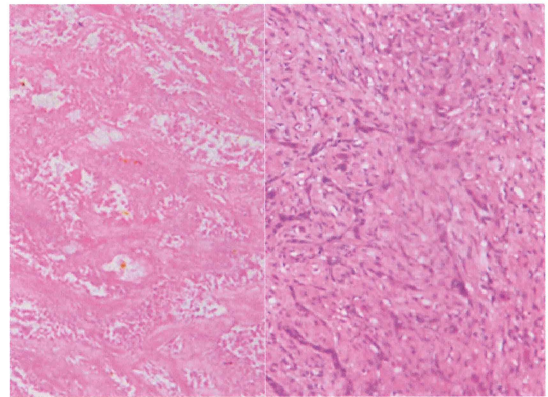


短紡錘形の筋上皮細胞様細胞が密に増生している。硝子性間質が多く、いわゆる間質性粘液が少ない症例。一見細胞密度が高く、細胞異型を認めるが良性腫瘍。

症例 7 梗塞をきたした多形腺腫

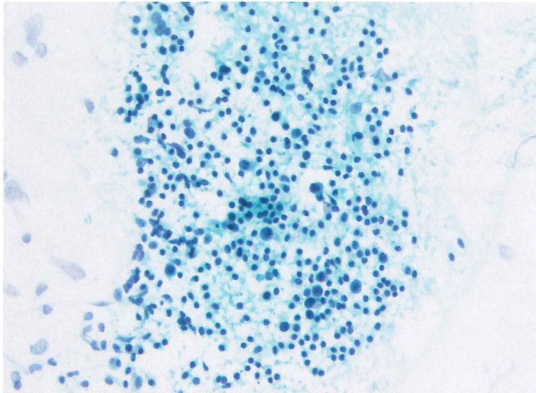


壊死性背景に、リンパ球、紡錘形の非上皮様細胞集塊が多数見られる。

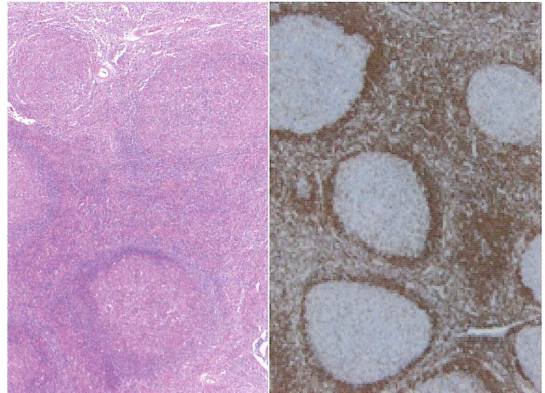


広く梗塞による壊死を認めるが、辺縁にはviableな成分も残存していた。背景の基質の評価が困難。良性腫瘍でも梗塞を起こすことがあるので注意が必要である。

症例8 反応性リンパ濾胞過形成

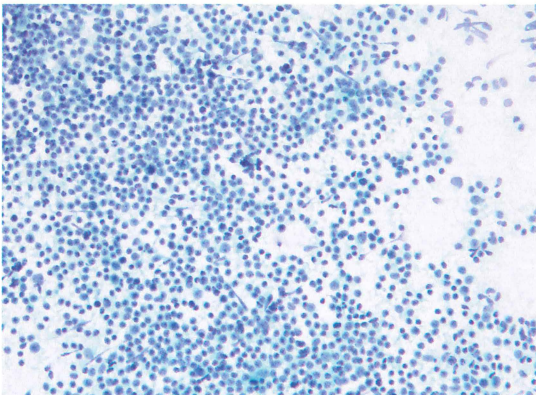


多様性を示すリンパ球（多数）、組織球（+）が見られる。

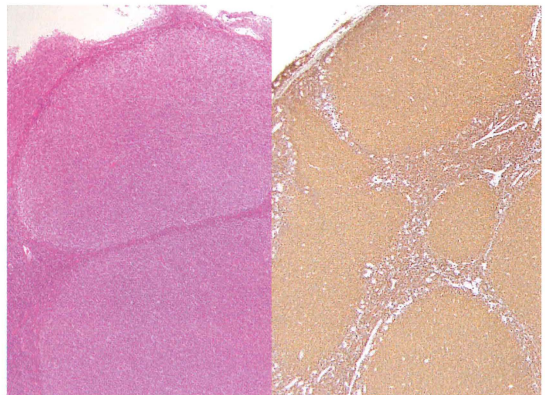


多数の核分裂像。出現しているリンパ球は多彩。核破片貪食組織球（Tingible body macrophage）。bcl-2染色にて濾胞は陰性。

症例9 濾胞性リンパ腫（grade 2）

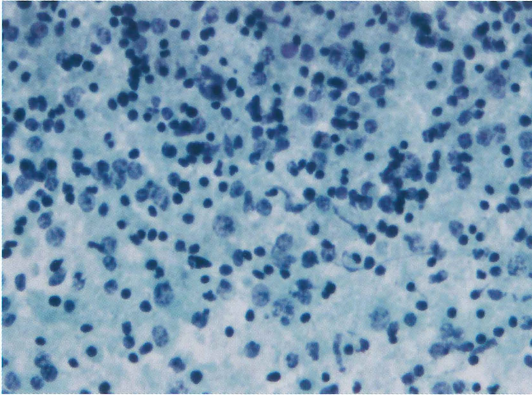


N/C比の著明な増加、クロマチン増量、核形不整を示す異型細胞が、単一性かつ孤在性に多数見られる。

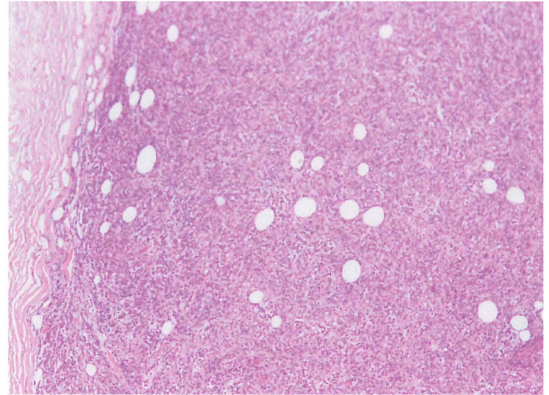


くびれを有し核小体を認める胚中心細胞（Centrocyte）と大型リンパ球で類円形核を有する胚中心芽細胞（centroblast）を認める。Tingible body macrophageを認めない。

症例10 びまん性大細胞型B 細胞リンパ腫

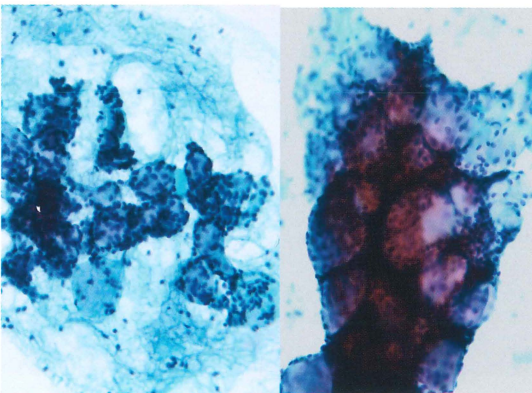


多様性を示す変性したリンパ球が多数見られるが、比較的にクロマチン粗剛な大型のリンパ球の割合が多い。

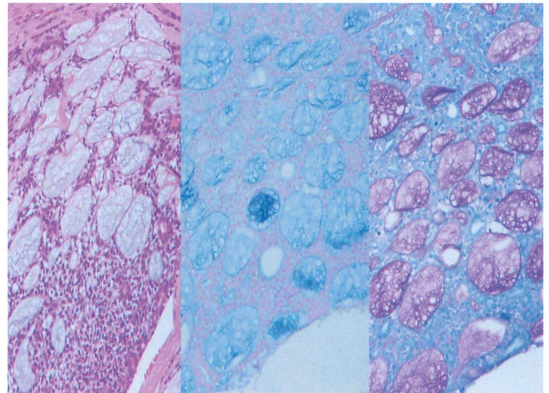


大型B リンパ球のびまん性増生。免疫芽型（明瞭な核小体が1個）の増生。大型の基準は組織球の核の2倍以上の核が目安となる。

症例11 腺様嚢胞癌

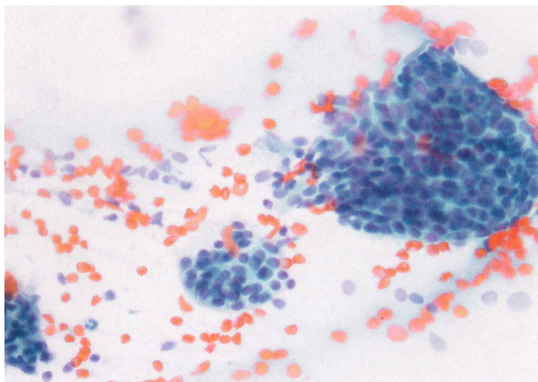


N/C比大で類円形核を有する裸核状の小型の腫瘍細胞が、粘液球を取り囲む様な配列の集塊で見られる。

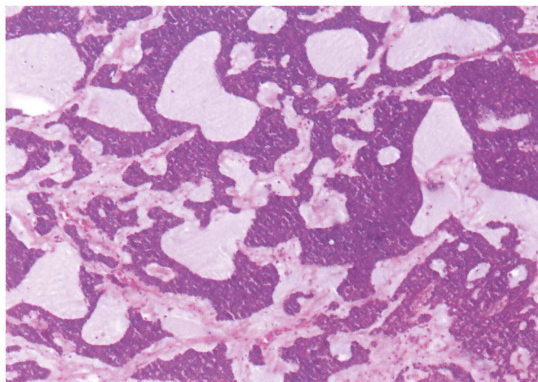


細胞が、各所で篩状構造あるいは不規則な充実性胞巣を形成して増殖している。偽嚢胞腔内の粘液様物質は、アルシアン青染色で陽性を示し、ギムザ染色では、赤紫色に異染性を示す。

症例12 腺様嚢胞癌

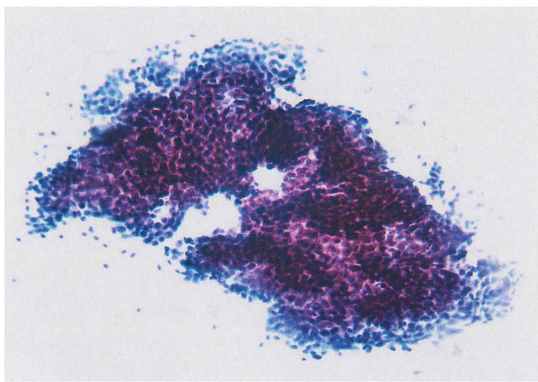


クロマチンが濃縮し細胞質をほとんど持たない、低分化な小型異型細胞が上皮集塊性に見られる。腺様嚢胞癌の転移を示唆する細胞集塊であるが、特徴的な粘液塊などがみられない。

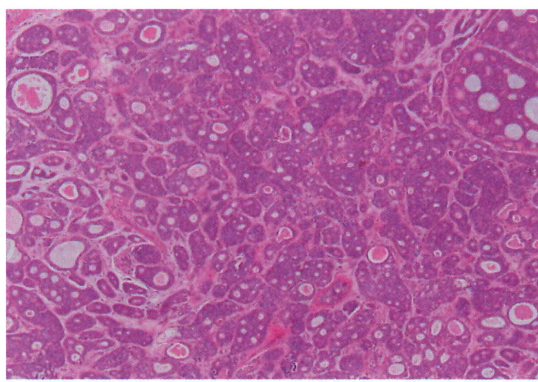


充実型再発を繰り返して腺腔構造が少なくなったケース。粘液様物質も少ない。核の大小不同は目立たず、核異型に乏しいが臨床的に悪性の経過をたどる。

症例13 腺様嚢胞癌（副鼻腔腫瘍肺転移）

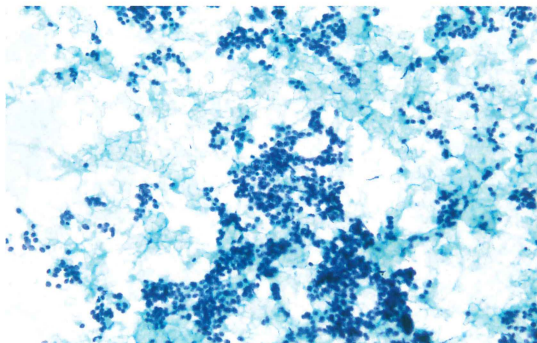


核の濃染を示す類円形核の変性した細胞集塊が少数認められる。それらの集塊は2層構造を呈し、唾液腺腫瘍に類似の細胞像を示している。細胞量少数。

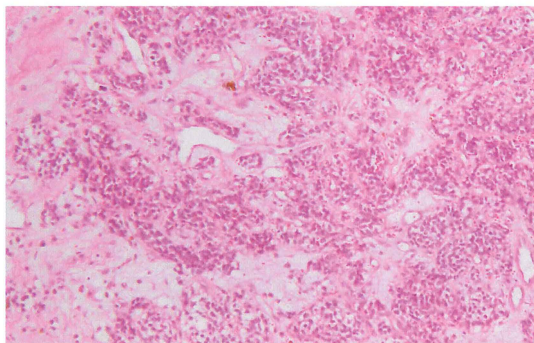


粘液性の背景に基底細胞に類似する裸核状腫瘍細胞が球状の粘液様物質を取り囲むように配列し小嚢胞を形成している。腫瘍細胞は比較的小型類円形でクロマチンに富む核と少量の細胞質を有する。核の大小不同は目立たず、核異型に乏しいのが特徴。

症例14 嗅神経芽腫

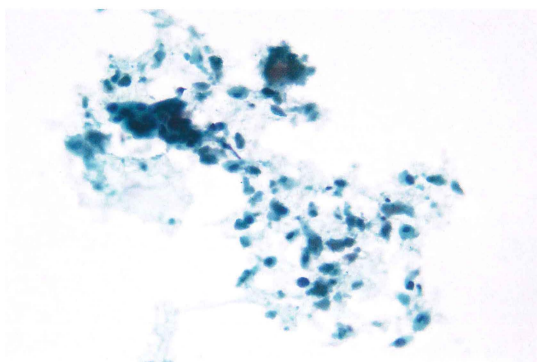


N/C比が高く、粗顆粒状のクロマチンが増加した核を持ち、上皮様結合を示す小型異型細胞が見られる。

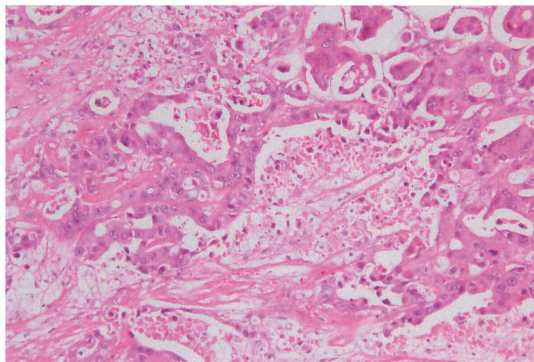


40代から50代くらいに多い成人の腫瘍。嗅神経から発生し篩骨洞を中心に発育。リンパ節転移や全身転移もある。5年生存率は80%。細胞質の乏しい芽球がびまん性に増殖。ロゼット形成を認める。

症例15 唾液導管癌（多形腺腫由来を疑う）

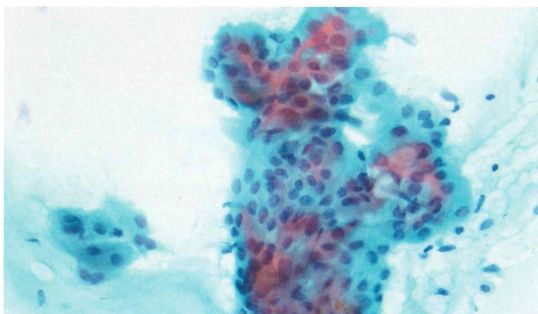


壊死を背景に、N/C比大、クロマチン増量、核の大小不同、核小体明瞭を示す変性した異型細胞が、散在性から低結合性の不規則重積性集塊で見られる。

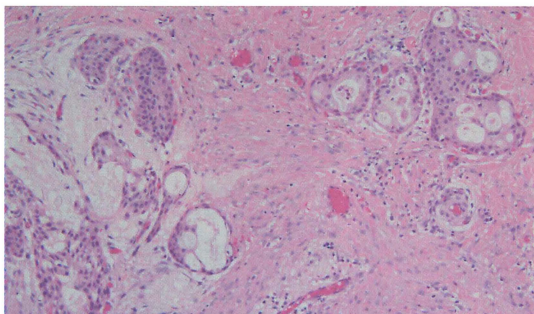


壊死を伴って重積性、立体的集塊が出現する。結合性は低下し、孤立性の腫瘍細胞が出現する。多形性のある大型類円形核を有し、核クロマチンは粗顆粒状に増量、核小体は明瞭である。

症例16 粘表皮癌 (Low grade)

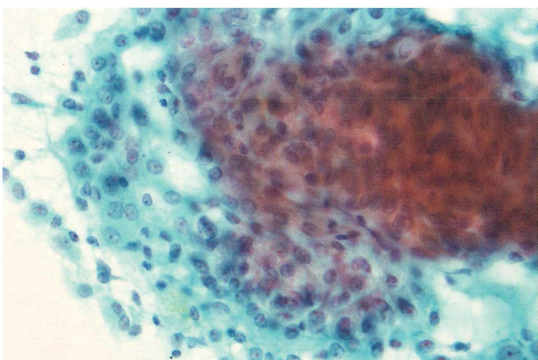


粘液細胞、類表皮細胞、中間細胞が混在して認められる。中間細胞は結合性がよく、細胞境界が明瞭で、しばしば偽乳頭状の細胞集塊を形成する。類上皮細胞より小型で類円形を呈する。低悪性度腫瘍では嚢胞を形成することから結果的に細胞成分が少なくなる。

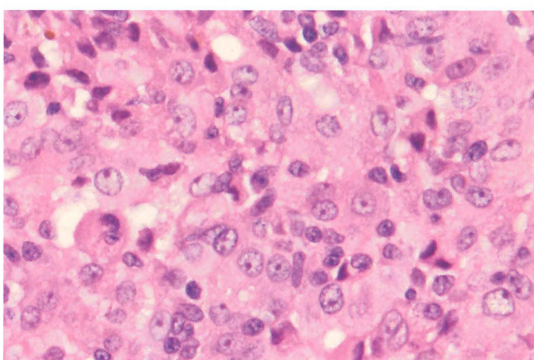


粘液細胞、類表皮細胞、そして中間細胞が種々の割合で混在する。低悪性度腫瘍では嚢胞が形成され、粘液細胞と中間細胞が多く認められる。高悪性度腫瘍では充実性成分が主体をなし、類表皮細胞が優位となる。RT-PCR法にてCRTC1-MAML2癒合遺伝子が高率に検出される。多量の嚢胞内粘液のみが観察されることもあり、その場合には鑑別としてがま腫、ワルチン腫瘍が上げられる。

症例17 分泌癌



結合性の低下した一様な腫瘍細胞が出現する。腫瘍細胞の核は小型から中型で異型に乏しい。細胞質内に空胞状変化が認められる。チモーゲン顆粒を持たない。背景に多数の組織球と粘液成分を伴う。分泌物を入れた微小濾胞状細胞集塊が認められる。



2010年に提唱された分類。乳腺の分泌癌に類似した腫瘍として以前は乳腺相分泌癌 mammary analogue secretory carcinomaといわれていた。耳下腺に好発、男性にやや多い低悪性度腫瘍。ETV6-NTRAK3融合遺伝子を持つ。昔は腺房細胞癌の微小嚢胞亜型、濾胞亜型などと分類されていた一群。チモーゲン顆粒は持たない。